

第39群 絨毛性疾患 II (220~225)

220. 子宮周囲血管内奇胎(仮称)の病態・臨床像とその治療

(慶応大) 田村 昭蔵, 白石 悟
畑中 諭, 栗原 操寿

(大田原日赤病院) 小林 徹, 橋本 透

胎状奇胎(以下奇胎)娩出後に子宮周囲血管内に奇胎嚢胞(以下嚢胞)が存続し, 手術的に摘出した3症例につき術前術後のhCGの経過を中心に臨床像と手術所見とを比較検討した。

術前経過: 症例1(16歳)では化学療法(以下化療)開始時尿中hCG 102,400IU/lであったが, Act-D 1コースで3,200IU/lまで下降したが, その後は3コース追加するも, 1,600IU/lを示した。症例2(24歳, 0経)では化療開始時102,400IU/lで, Act-DとMethotrexateの併用療法6週間施行により腫転移巣消失(手術併用)し, 尿中hCGも1,600IU/lとなった。引き続きAct-D 2コース追加したところ肺多発転移巣はすべて消失したが, hCG値の下降遷延し800~1,600IU/lを示した。症例3(30歳, 1経)では奇胎娩出後来院までの1年4カ月間月経周期・BBTは極めて不規則で, 尿中hCG値は2,000IU/lを持続, 化療開始時4,000IU/l, Act-D 1コース後1,000IU/lであった。

手術: 症例1では子宮体部左側後下方のA-V shuntと思われる部分に小切開を加え嚢胞を排除し, 右付属器切除と, 症例2では右側卵管間膜の怒張した静脈内に連珠状にある嚢胞を透視したので右付属器切除を施行し, とともに妊孕性を温存した。症例3では左側卵管間膜の静脈が太く怒張し, 嚢腫が詰まっているのを認め, 単純子宮全摘出術と左付属器切除術を施行した。

術後経過: 2~3週で尿中hCGはLHレベルとなり, 術後2年2カ月~3年6カ月を経て全例完全寛解状態にある。

結論: 臨床像の特徴として, ①奇胎娩出後hCG量の増減の少ない長期存続, ②化療によるhCGの下降遷延を指摘したい。診断には現段階ではこのhCGの経過が最も有用な示標であり, 骨盤血管造影や内診所見などを合せ考えて総合的に診断する。治療法としては, ①血管内より嚢胞を排除するか, ②嚢胞を内蔵する血管を摘除する。このような病態の存在を認識することは治療期間の短縮や妊孕性の温存など絨毛性疾患の適正取扱い上極めて有用と信じ, 子宮周囲血管内奇胎な

る概念を提唱した。

質問

(佐賀医大) 杉森 甫

私も同様な症例を経験しており, 新しいentityとして大変興味深い。症例1, 2では局所切除ないし付属器切除のみを行っておられるが, 他に病巣がないという診断はどのようにして確かめられたか。

回答

(慶応大) 田村 昭蔵

結局100%にこれだけ摘出すればよしと言うことは出来ません。そのため結果を確認すべく長期間のfollow upして今回報告したわけである。手術結果がよくとも付加的化学療法をしておいた方がよいであろう。一つのメルクマールは尿中hCG量と凡そ見合った奇胎嚢胞数が摘出出来ればそれでよしと考えることと思う。

221. 絨毛性疾患における Small molecular size immunoreactive hCG (IR-hCG) の性格

(浜松医大)

小林 浩, 岡田 喜親, 藤井 俊朗

前田 真, 寺尾 俊彦, 川島 吉良

絨毛性疾患患者尿中には正常妊婦尿中には存在しない低分子のimmunoreactive hCG (Small Molecular Size-Immunoreactive hCG: SMS-IR hCG) が存在することが知られているが, これら免疫活性を有するminor componentsの生物学的活性および生化学的性質を検討した。

絨毛性疾患患者尿をKaolin-Acetone-Alcohol沈殿, DEAE-Sephacel, Sephadex G-100カラムによる精製過程で, 分子量が22,000と9,600の2種類のSMS-IR hCGが存在した。ちなみにnative hCGは38,000, α -subunitは15,000, β -subunitは23,000である。前者, すなわち分子量が22,000の画分が証明された症例は, Mole 2例, Invasive mole 1例, Choriocarcinoma 1例でありいずれも血液学上血中free T_4 値が高値でhyperthyroidismを呈した症例であった。免疫学的に抗hCG, 抗hCG β とは反応するが抗hCG α とは反応しなかつた。また, native hCG α -subunitとrecombinationすることが可能であり, このrecombined hCGは家兎に対して強力なthyrotropic活性を有した。一方, この画分のほとんどはConcanavalin Aに結合するhCGでありasialo hCGとは異なるものと考えられる。